

---

---

## 感想

浜田 耕策：九州大学文学部

---

「沖縄の歴史情報」に参加したこの間、平成六年度の大学院演習において「朝日・朝琉関係史研究」の題目を掲げて、高麗末から李朝前期に至る関係史研究の蓄積を学び、同時に原史料を読み込むことを行った。まず金柄夏著『李朝前期対日貿易研究』を学生達と検討した。とりわけ論のもとになる『朝鮮王朝実録』（『李朝実録』）の当該記事を読み下し、また、貿易の形態と交換される物資の品目とそれらの相互の移動に関心を寄せた。

この演習は、題目を多少変えながらも平成九年度にまで連続している。平成六年度に参加した Kenneth R. Robinson 氏は翌年に母校のハワイ大学に戻り、朝鮮王朝の対外関係史研究を続け、「一四五五年三月の人名記録にみる朝鮮王朝の受職女真人」（『年報 朝鮮学』六、九州大学朝鮮学研究会、一九九七年七月）等を発表した。氏からは、この十二月に、国際基督教大学に赴任して「朝鮮史、日本史、東アジア交流史」を講義するという、嬉しい便りが届けられている。

演習では、国家間の形式を重じた外交の展開を研究することは、軽視されてはならないが、また、国家の形式外交の外にあって実利に奔走する貿易商人や形式を逆手に取って巧妙に交易を繰り広げる多くの偽使の存在、南海の物産や海外情報の朝鮮への流入過程に関心が集まった。将来、ゼミ生等の新視点が期待される。